

生活関連物資定期調査の結果について

生活関連物資14品目（石油製品4品目、農林水産物資10品目）について、12月1日～5日に価格・需給状況を調査しましたが、その結果については以下のとおりです。

なお、対前年同月比（％）については、今回調査の平均価格と前年同月の平均価格（いずれも税込価格）との単純比較になっておりますので、あらかじめご了承ください。

1 価格動向

① 石油製品

(単位：円（消費税込み）)

品目名	規格・容量	店舗形態	今回調査の平均価格 (税8%)	前年同月の平均価格 (税5%)	対前年同月比 (%)
ガソリン	レギュラー1リットル、店頭現金売り	一般店舗	158	156	1.3
		セルフ	154	153	0.7
軽油	個人消費向け1リットル、店頭現金売り	一般店舗	136	135	0.7
		セルフ	131	132	▲0.8
灯油	店頭価格、18リットル	一般店舗	1,788	1,766	1.2
		セルフ	1,748	1,739	0.5
	配達価格、18リットル	一般店舗	1,942	1,889	2.8
LPガス	一般家庭用、基本料金及び10m ³ を使用した料金	一般店舗	8,271	8,031	3.0

② 農林水産物資

品目名	規格	今回調査の平均価格 (税8%)	前年同月の平均価格 (税5%)	対前年同月比 (%)
うるち米	県内産、精米、コシヒカリ、5kg	1,925	2,133	▲9.8
牛肉	ロース 100g	418	362	15.5
豚肉	ロース 100g	203	179	13.4
鶏肉	ブロイラー、もも肉、100g	111	104	6.7
まぐろ	赤身(生)、切り身(刺身用)、「めばち」又は「きはだ」100g	464	380	22.1
キャベツ	中サイズ1個	163	241	▲32.4
ほうれんそう	1束	147	177	▲16.9
ねぎ	中サイズ1本	60	80	▲25.0
だいこん	中サイズ1本	113	138	▲18.1
たまねぎ	中サイズ1個	53	65	▲18.5

2 結果の概要

【石油製品】

- ・前回調査（平成25年12月）と比較して、「ガソリン」が対前回は2円高（1.3%）「軽油」が1円安（▲0.8%）、「灯油」が22円高（1リットルあたり約1.2円）高（1.2%）、「LPガス」が240円高（3.0%）と、一部品目のみが値下がりとなった。
- ・原油価格の下落により、元売仕切り価格、市場価格も値下がり傾向にあるものの、原油価格や為替、寒気の影響等により価格も左右されることから、今後も海外原油市場の動向と併せ、石油製品の価格・需給動向を引き続き注視していく。

《参考》直近の価格動向（資源エネルギー庁調査の結果：本県平均）

○H26.11.25調査	：ガソリン（レギュラー）1リットル 157.6円	／灯油（店頭）18リットル 1,808円
○H26.12.1調査	：ガソリン（レギュラー）1リットル 157.5円	／灯油（店頭）18リットル 1,801円
○H26.12.8調査	：ガソリン（レギュラー）1リットル 155.1円	／灯油（店頭）18リットル 1,773円

【農林水産物資】

- ・「うるち米」が対前回は208円安（▲9.8%）、「牛肉」、「豚肉」、「鶏肉」は前回調査と比較して7円（6.7%）から56円高（15.5%）となった。「まぐろ」においては84円高（22.1%）と値上がりした。
- ・野菜は（「キャベツ」、「ほうれんそう」、「ねぎ」、「だいこん」、「たまねぎ」）は、前回調査と比較して12円（▲18.5%）から78円（▲32.4%）と値下がりとなった。

《参考》今回調査における野菜の出回り状況

キャベツ	：主に千葉県、福島県産	ほうれんそう	：主に福島県、茨城県、群馬県産
ねぎ	：主に福島県、茨城県産	だいこん	：主に千葉県、福島県産
たまねぎ	：主に北海道産		

3 年末年始における価格・需給動向

上記調査と併せて、14の事業者（卸売市場、関係業界）を対象に生活関連物資の価格・需給の現況と年末年始における見通しについて調査を実施しましたが、その結果については以下のとおりです。

【石油製品】

- ・需要について、ガソリン、軽油は生産体制に問題はなく、現段階では年末年始にかけて在庫不足に陥るとは考え難い。灯油についても石油各社の生産余力は十分なものと思われる。今後も着実に積み増しを進めるものと予測され、安定供給に支障をきたす恐れはないものと思われる。
- ・価格について、ガソリン、軽油は原油価格の動向と為替変動、更には先物市場の動向、または元売各社の経営状況により、変動するが、冬場の需要期を目前に控え、値下げ傾向であるものの、今後も大きな価格下落につながらないと考えられる。灯油についても原油価格や為替、さらには先物市場の動向により、元売仕切り価格も変動を繰り返されるが、寒気の影響により価格も左右されることから、大きな下落にはつながらないものと思われる。
- ・LPガスは、指標となるC/P価格が2014年12月のC/P価格は前月より60ドル下げ、550ドル（前年同月1,100ドル）と5年ぶりの安値となっているが為替は上昇している。昨年に比べ、中東情勢の影響等から低めで推移しており、為替の円安傾向であるものの値下げ傾向である。小売価格については、現状のところ横ばいで推移している。

【農林水産物資】

- ・「うるち米」は、過去5年間においては、最も低価格での販売を行っている。精米製品については、9月・10月で新米切替がほぼ終了しており、年末年始についても大きな変動要素は見当たらない。
- ・「牛肉」は、出荷頭数は前年より減少する見込みで年末年始ともに需要が高まり価格も上昇する見通し。「豚肉」は、出荷頭数は前年並程度の予測だが、PED（豚流行性下痢）等の影響によって左右される可能性も考えられる。
- ・「まぐろ」は、今後入荷量が減少し価格は上昇傾向になるが、年末年始に向かい需要が減少するため需給のバランスが崩れ価格は昨年程度になるとと思われる。
- ・「キャベツ」は各産地概ね順調な出荷が続く見込みで相場の推移も大きな変動なく安定価格も見込まれる。「ほうれんそう」は平年並みの生産・出荷状況が見込まれるが、天候に大きく左右されるため年末に向けて高単価での見込み。「ねぎ」は概ね順調な出荷が見込まれ価格も例年に近い価格になる見込み。「だいこん」は作柄良好でやや前進出荷傾向。単価安で推移の見込み。「たまねぎ」は産地倉入れ終了となり計画に基づき出荷となる。価格は平年並みに推移する見込み。

〔1、2の調査方法等について〕

①調査方法

県内7地方振興局において、調査期間中に原則、調査店舗に出向き、当該店舗において表示価格の確認及び聞き取りにより価格を調査する。

②調査の時期：

年1回の調査とし、調査時期は12月とする。

③対象店舗数：

○「石油製品」については、調査店舗の内訳を下記のとおりとする。

ガソリン：一般店舗3、セルフスタンド2、軽油：一般店舗3、セルフスタンド2
灯油（店頭）：一般店舗3、セルフスタンド2、灯油（配達）：一般店舗5
LPガス：一般店舗5

○「農林水産物資」については、非定店舗35店舗（各地方振興局5店舗）を原則とする。

各店舗で販売されている福島県産の農林水産物は、いずれも安全性が確認されたものです。
～ がんばろう 福島！ 福島県の農林水産業を応援しましょう！ ～

